

出版交流

我々が日常、新聞、雑誌、図書などの活字メディアから受ける恩恵は計り知れず、異文化理解においても活字メディアの寄与するところは大きい。

基金では、設立以来、対日理解を促進するうえで極めて有効な活字メディア関連事業 日本文学作品等の翻訳や外国語で書かれた日本紹介書籍の出版の促進、海外で開催される国際図書展への参加等 を中心に、日本文化の「発信」に積極的に取り組んでいる。

更に、日本の社会、人文科学分野の研究動向をまとめた英文図書『日本研究基本書目』を出版し、また基金機関誌として『国際交流』、*Japanese Book News*を定期発行している。

1. 日本関係図書の出版・翻訳に対する援助

(1) 出版協力

日本に対する理解の促進につながる、外国語で書かれた良書が数多く出版されるように、優秀な出版企画を支援する。助成金は印刷・製本費の25%を上限とするが、ODA対象国や非営利出版社からの申請、および学術書の出版に限り、必要に応じて50%を上限とする。

<2003年度事業例>

- 『近代中日両国企業家の比較研究：張鶴と渋澤栄一を中心にして』(周見著・中国社会科学出版社：中国)

張鶴と渋澤栄一を中心に据え、近代の日本「企業家」を比較研究した学術書の中国語版。

- Meiji-Ceramics* (GISELA, Sigran Jahn著・Arnoldsche Art Publishers：ドイツ)

明治期に輸出された日本の陶磁器について解説する図書のドイツ語版。

- 『日本昔話25傑作集』(稲田浩二編・BONDAR, Olexandr Ivanovich 訳・The Publishing “Astroprint”：ウクライナ)

日本昔話100選から抜粋し、翻訳したウクライナ語版。

- 「瀬戸内寂聴『源氏物語』」(瀬戸内寂聴著・MOSTAFA, Ahmed M. Fathy 訳・メリット出版社：エジプト)

瀬戸内寂聴『源氏物語』のアラビア語抄訳版。

(2) 翻訳協力

優れた邦国図書の各国語への翻訳を通じて、世界各国における日本理解が促進されるように、優良な翻訳企画を支援する。助成金は、一般書の場合は翻訳料の40%、学術書の場合は60%、基金が選定した翻訳推薦著作の場合は80%を上限とする。

<2003年度事業例>

- 『人権、国家、文明』(大沼保昭著・FLAHERTY, Darryl Edward 訳・コロンビア大学出版局：米国)

大沼保昭による同名著作の英語訳。

- 『小津安二郎の反映画』(吉田喜重著・VIALA, Jean 訳・Institut Lumiere：フランス)

吉田喜重による同名著作のフランス語訳。

- 『こころ』(夏目漱石著・PAEGLE, Ilze 訳・Atena Publishers, Ltd.：ラトビア)

夏目漱石による同名著作のラトビア語訳。

2. 単行書・定期刊行物の出版

- (1) 『日本研究基本書目』(“An Introductory Bibliography for Japanese Studies”)

本書は日本の学界の研究成果と基本文献を紹介する英文の文献目録で、1974年以来、社会科学編と人文科学編を隔年、交互に出版し、海外の日本研究機関、図書館を中心に配布している。

2003年度は、人文科学編Vol.XIII, Part 2(1999-2000考古学、歴史学、宗教学、哲学、日本語学、文学、芸術学の各分野)を出版した。

- (2) 『国際交流』(和文、季刊、各号3,200部)

本誌は、学者、芸術家などの専門家から広く国際交流に関心のある一般読者までを対象として発行している基金の和文機関誌である。毎号国際交流に関する論文、エッセイ、座談会、インタビューなどの記事のほか、基金活動紹介記事により構成されている。

2003年度は第100号～第103号を発行した。

- (3) *Japanese Book News* の定期発行

海外の出版社、編集者、翻訳者、日本研究者などに日本の最新の出版動向と新刊情報を英文で定期的に提供することにより、海外において日本の新刊図書に関する情報が不足している状況を改善し、海外における日本図書の翻訳、出版企画を喚起することを目指している。毎号、時宜になかった出版関係のテーマについてのエッセイ、児童図書(3冊)の紹介、文芸一般や出版流通に関するコラム、新刊図書(36冊)の紹介、出版界の最新ニュース、作家による「翻訳」についてのエッセイにより構成されている。

2003年度は、第41号、第42号を発行した。



国際交流

3. 日本文学作品翻訳出版特別事業

日本人の心を伝える日本の文学作品で、日本国内で広く読まれているにもかかわらず、海外でほとんど紹介されてこなかった作家の作品を翻訳出版し、日本研究者はもとより、広く一般に日本を知る機会を提供することを目的とした事業である。

2003年度は、長編小説『坂の上の雲』(司馬遼太郎)6巻および7巻ならびに長編『韃靼疾風録』(司馬遼太郎)の英訳を継続して実施した。

4. 日本文学作品ロシア語翻訳出版事業

日本の現代の文学作品をロシア語で翻訳出版することにより、ロシア語圏における対日理解の促進を図ることを目的とした事業である。

2003年度は、「現代日本文学の発見」シリーズとして、『ふしぎなかげが～現代日本詩歌』『カタストロフの理論～現代日本小説』の2冊を刊行し、『暗殺剣虎ノ眼～現代日本時代小説』および『ゴルディアスの結び目～現代日本SF小説』の翻訳を完了した。

5. 図書等の寄贈

海外の日本研究・教育機関等に日本関係図書を寄贈するプログラム。原則として各機関がその日本研究の段階に応じて、イ)英文基本図書セット ロ)基金提供の英文図書リストから独自に選書 ハ)和文図書・ビデオ・CD・DVDなどを独自に選書、のいずれかを選び、基金が購入、送付する。

<2003年度事業例>

●京東大学校図書館(韓国)

Japan: Spirit and Form など、基本図書セットとして53タイトル55冊を寄贈した。

●ニュー・イングランド大学(オーストラリア)

The Impact of Traditional Thought on Present-day Japan など、英文図書52タイトル52冊を寄贈した。

●カレル大学哲学部(チェコ)

『政治学事典』など、和文図書15タイトル84冊を寄贈した。

●高円宮記念文庫特別図書寄贈

基金囑託を21年間務められ、2002年11月21日に薨去された高円宮憲仁殿下の国際交流への多大なる功績を称え、未永く文化交流史上にその名を留めるため、同殿下が学生時代に留学されたカナダ・クイーンズ大学に対して同殿下の名を冠した「高円

宮記念文庫(The Japan Foundation “Prince Takamado Memorial Collection”)の特別図書寄贈を実施した。

6. 図書展への参加

日本の出版文化の紹介と対日理解促進のため、海外で開催される国際図書展、日本図書展に、社団法人出版文化国際交流会と共催で参加し、日本ブースの出展等を行なっている。2003年度は10件の図書展に参加した。

<2003年度事業例>

●第9回『ソウル国際図書展』(2003年6月4日～9日)

今回で第9回目となる「ソウル国際図書展」は、例年20万人を超える入場者数を記録する韓国でも最も人気のある国際イベントのひとつである。韓国では、外国からの翻訳書が出版物全体の28%を占めるが、とりわけ日本の著作物からの翻訳書が多いのが特徴で、特に今回は韓国で出版された日本関係書の展示コーナーを設けて好評を博した。

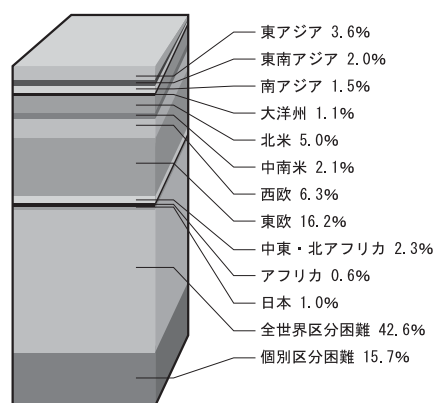
●「第5回モスクワ『ノン・フィクション』国際知的図書見本市」(2003年11月26日～12月1日)

ロシアにおける日本文化フェスティバル事業の一環として、モスクワ国際図書展に代えて参加した。日本がテーマ国に選ばれたこともあり、会場入口近くの好位置に配された日本会場は展示図書の質と展示センスの上質感でひととき目立つ存在となった。同図書展「ジャパン・デイ」のイベントとして、基金の日本文学作品ロシア語翻訳出版プログラムにより出版された『ふしぎなかげが～現代日本詩歌』および『カタストロフの理論～現代日本小説』所収作品の作者によるシンポジウムを同時開催し、相乗効果で参加の実をあげた。

●「第16回ニューデリー国際図書展」(2004年2月14日～22日)

隔年開催の国際図書展であるが、会期中の入場者数は約50万人に達し、まさに国民的な文化イベントといえる。日本ブースの展示は、折り紙、日本語学習書を始めた多彩な図書が幅広い人気を呼び好評を博した。

地域別比率



事業費合計 2億9,300万円